

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月25日

自ら考えつながり合う美しが丘の子の育成

25513

札幌市立美しが丘小学校

1 本年度の重点目標

自ら自ら考えつながり合う美しが丘の子の育成 ～やってみる！つづけてみる！～

- ・ 確かな学力の育成
- ・ 豊かな心の育成
- ・ 健やかな体の育成
- ・ 信頼される学校の創造

2 本年度の経営方針

「基礎・基本の確実な定着」「主体的・対話的で深い学びの充実」「家庭での学習の習慣化」「ICT を活用した教育の充実」「挨拶・マナー・言葉遣いの徹底」「人間尊重教育の充実」「いじめ・不登校への組織的な対応」「異学年交流の充実」「自治的な活動の充実」「全員遊び、外遊びの推進による運動の日常化」「子ども自らの健康管理の定着」「通級指導教室との連携」「運動や自らの健康を高めたいとなる校内外環境整備」「体育授業の充実」「健康・食育指導の充実」

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
確かな学力の育成	基礎基本の確実な定着を図る指導の工夫ができた。	B	TT や少人数指導の計画的な実施を行うことで、児童の特性に合わせた指導方法の工夫を行った。また、課題探究する場面と習熟を図る場面を明確にした学習展開を工夫し基礎基本の定着を図った。学力検査の結果等を踏まえ、言語活動を大切に授業改善に力を入れ、更なる基礎学力の定着を図る授業を目指していく。	A	A
	日常の授業を通して、対話的な学びを意識させることができた。	A	個人→ペア→グループ→全体で取り組めるよう段階を踏んで交流の場面を設けた。他者の考えに触れることで、自分の見方や考え方を広げたり深めたりし、主体的に対話する姿が見られるようになった。今後は、交流するねらいを明確にし、ICT 等も活用しながら、より対話的な学びが意識されるような授業を目指していく。	A	A
	家庭での学習につながる指導の工夫や自ら学ぶ習慣づくりは図ることができた。	B	年度初めに「家庭学習の手引き」の配付やお便りや懇談で家庭学習の啓発を行い、学年の発達段階に合わせた児童への指導、家庭への協力の呼びかけを行った。家庭学習の目的や効果について今後も啓発を進めて継続していく。教師の声掛けや励ましのコメント、友達との家庭学習の取組の交流等が意欲付けとなり、少しずつ習慣づくりが図られた。	A	A
	GIGA スクールの取組（個別最適化の学び）について、教育効果の高まりを図ることができた。	A	子どもがそれぞれの目的に合わせて、タブレット端末を効果的に活用し、教育効果の高まりが感じられる。今後は自分で判断して使用できるように、タブレット端末活用のルールの制定を行っていく。また、GIGA スクール構想について保護者への理解、教職員の研修、授業実践を積み重ねて学習効果の更なる高まりを目指していく。	A	A

<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本校が長年取り組んでいる成果が現れている。 • 変化する現代社会において、確かな学力を身に付けることは必要不可欠である。児童の学習意欲を持続し、取り組むべき課題を見つけるように学校では導くような指導を続けてほしい。今後も学校の指導、家庭学習の意義や必要性について保護者を交えて取り組んでいく必要性を感じる。 • 本校は基礎教育に力を入れていることを感じる。ネット社会で生活している子どもたちにとって有効な手立てを取り入れて力を付けていくようにしたい。 				
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな心の育成</p>	<p>子ども自ら進んで挨拶や返事をする習慣を身に付けさせる取組を図ることができた。</p>	<p>A</p>	<p>児童会活動の中で挨拶運動を行い、自治的に活動する取組を継続していく中で、自分から進んで挨拶をする習慣が身に付いてきている。自然と挨拶ができるような環境をつくり出すために教職員が率先して手本を示し、他学年との関わりの中でも積極的に挨拶ができるよう声掛けをしていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる望ましい集団を育成することができた。</p>	<p>A</p>	<p>職員会議等の場で児童に関する情報を共有し、全職員が児童のことを知っている状態をつくり出すことを心掛けた。そのため、全職員で全児童・保護者の指導や支援を行うことができていく。今後も、一人一人の個性を認め合い、温かく安心できる集団づくりのために、道徳教育を充実させるとともに、多様性を大切にすることはということなのかについて教職員の研修の充実を図る。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>行事や特別活動、異学年交流を通して、「つながり」を意識した取組を推進することができた。</p>	<p>A</p>	<p>運動会などの行事、花いっぱい活動やうつくしタイムなどの異学年交流を通し、学級や学年の枠を超えたつながりを意図的にもたせることを心掛けた。今後単学級が増えていくことを見据え、より子どもたちの育ちを見取り、その時の姿に沿った活動内容の精選や充実を図っていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>自己肯定感を高める子どもへの指導と評価が適切に行われていた。</p>	<p>A</p>	<p>児童の学びや行動のよさ、その子の成長を認め、価値付けるようにする。その関わりが自己肯定感を高めることにつながる。個別最適な学習と協働的な学習の両輪を軸に活動を構成し、自分の活動を振り返ったり、友達のよさを認めたりする活動を継続していくことで客観的に自分を振り返る力を身に付けさせる。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者 評価委員に よる意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちは顔を合わせるといつも元気に挨拶をする。日頃の子どもたちとの関わりで豊かな心の育ちを感じる。日常の関わりで心が育っていることを感じる。これからも地域でできる関わりを考え、子どもたちを育てていきたい。 • 多様な価値観や複雑な人間関係の中での生きていくことで柔軟な対応が求められる時代になっている。学校に居場所がある、自らを表現できるよう様々な機会を通じて子どもを育ててほしい。子どもが孤立してないかを細心の注意、気付き、配慮で見守ってほしい。そのためには教職員間、保護者への連携が大切だと感じる。 				
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健やかな体の育成</p>	<p>全員遊び、外遊びの推進による運動の日常化、体育授業の充実が図られていた。</p>	<p>A</p>	<p>グラウンドや体育館で体を動かす活動と呼びかけ、全員遊びが盛んに行われるようした。また、鉄棒週間、跳び箱週間、マット週間などを設定し、準備に時間をかけずに気軽に運動に取り組めるような環境を充実させてきた。「なわとびチャレンジ」の取組を推奨し、子どもたちが階級の突破などの具体的な目標をもって技術の習得に挑戦するようにする。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

	自分の体を大切にし、健康の保持増進や食に関する指導の充実が図られていた。	A	学期ごとに「生活きらきらチャレンジ」を設定し、全校一斉に自身の健康や食について見直す取組を行った。活動の開始にあたって栄養教諭と養護教諭が中心となって児童への指導と啓発を行い、意識を高める。また、保健便りや給食便り、保健室や給食室前の廊下の掲示を効果的に活用していくことができた。	A	A
	携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家庭でのルールやマナーを意識させることができた。	B	ネット環境はもはや子どもにとって日常の空間であり、いつどこでトラブルに巻き込まれるか予測できない状態である。職員が中心となって常に最新の情報を持ち、問題意識をもって子どもたちに指導できるよう情報教育カリキュラムを整備する。また、ネットモラル週間を設定し、情報マナー教育にも力を入れてきた。懇談会では保護者と情報交換を行い、実態を掴むとともに家庭と学校で連携しながら日常的な指導を行うようにする。	A	A
学校関係者 評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今のテレビやニュースでスマホ等による子どもが犯罪に巻き込まれる報道を目にし、心配に感じることが多い。目には見えない情報の指導の苦勞を感じている。 ・子どもたちからは学校給食がおいしいという声が多く聞かれる。食は健康につながり、本校の子どもは元気がいっぱいだと感じる。 ・感染症への対策として、家に帰っても手洗い、うがい、マスク使用をするように継続指導をしてほしい。 ・食事、睡眠不足、スマホ・PC利用のトラブル回避は保護者の役割も大きい。これまで以上に学校との連携で意識を高め、取組について啓発の重要性を感じる。また、上記の原因で思春期のメンタルヘルスも重要になっている。SNS（交友関係など）に起因するストレス、トラブルなどは兆候を掴みにくく、対策が急務である。家庭で押さえておくよいポイントを学校から知らせてほしい。 				
信頼される学校の創造	様々な状況を想定した避難訓練や感染対策、日常の安全管理や環境整備に努め、安全安心な学校にすることができた。	A	定期的かつ目的を明確にした避難訓練や学級指導を積み重ね、安全に関する意識を高めることができた。日頃より授業で聞く力を身に付けることが、いざという時の行動に生きていた。今後はより具体的な想定で訓練を行うことで、どのように行動をするべきかを考える活動を取り入れ、さらに教職員・児童の安全管理への意識を高めていく。また、「すぐる」で情報を発信したり、学級指導を行ったりして、自分の身を守る意識を高めて、安全・安心な学校づくりを徹底していく。	A	A
	情報発信を適切に行い、保護者地域の協力を得ながら教育活動を推進することができた。	A	学校・学年だより、懇談会やHP等を活用して学校や学級の様子を具体的に家庭や地域に発信している。また、「すぐる」を活用して、保護者への連絡や注意喚起を行うことも大切にされた。子どもに関わる出来事をなるべく迅速かつ詳細に保護者に連絡をして、日常的に家庭との連携を丁寧にとることを大切にされた。今後も継続して取り組んで行く。	A	A
	いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりに取り組むことができた。定期的なアンケートや心の健康観察アプリを活用し、いじめの早期発見・早期対応に努めることができた。	A	心の健康観察アプリを複数の目で確認し、お互いに声を掛け合うことで、児童の心や体の不調を捉え、迅速に対応することができた。月1回の定期的ないじめ防止対策委員会で情報共有を行い、全職員で全児童の実情を捉えて支援や指導に当たることができた。こまめな情報共有を通して、いじめの早期発見・早期対応に努める	A	A

	いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、組織的にいじめの対応・児童理解・情報共有・校内研修の実施に取り組むことができた。		ことができた。今後も、学校としての共有体制の構築と全職員で組織的な対応を進めていく。		
学校関係者 評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時など子どもの様子を見ている感じでは、いじめにつながるような様子は感じられない。 ・地域でも安全を守るような方法を考えていく。学校での取り組みを応援していきたい。 ・これまでの取り組んできた安全・安心に向けた学校と家庭・地域とのつながりを大切にしてほしい。児童やクラスの課題を、学校組織としての対応も速やかに求められる時代になってきている。家庭、地域と課題や問題意識などを共有し、対話を大切にしながら教育を進めていってほしい。 				